

## シャクヤク栽培講習会資料

### 1. 栽培温度

生育適温：夜温10℃ 日中25℃

#### 4条ハウス・2条ハウス作型

- ・日中25℃で管理すると、早生で80日、中生は90日で開花
- ・着蕾後は換気を十分に行う。品質維持、灰色かび病やすすかび症状の抑制
- ・萌芽後の低温では出蕾後（蕾が見えた頃）10日前後が最も耐寒性が劣る。（草丈20～30cm）  
0℃で9時間、-2℃では3時間でプラスチックする。保温に務める（小トンネル設置、霜ガード）
- ・30℃以上の高温管理は品質低下 ①花首徒長 ②奇形花や曲がり

### 2. 土壌水分

乾燥する場合は出蕾後に1株1L程度の灌水。出蕾直後～20日前後に乾燥に遭うと草丈が短くなりやすい。ハウス内が過湿状態になると病害が発生しやすくなるため換気を行う。

### 3. 栽培管理

#### 間引き

草丈が20～30cm前後になったら側芽を取り除く。通風を良くし、余計な養分を消費させない。立ち本数の多い品種は60本程度まで、少ない品種は40本程度とする。ただし極端に立ち本数の少ない株は芽整理を行わない。

#### 芽かき

脇芽が2cm前後の時できるだけ早めに行なう。頂花肥大、曲がりの抑制

#### 小トンネル 管理（半促成、凍霜害対策）（図1）

- ・設置は萌芽が始まってから（4月上旬）凍霜害被害の防止、露地作型の収穫分散
- ・25℃以上とならないように換気やアーケルフィルム等を使用して高温対策をおこなう。
- ・ダンポールは、長めを使用すると被覆機能が長くなり、凍霜害予防として期待できます。

凍霜害 対策 ～ 低温の2～3日前に散布～  
『霜ガード』取り寄せ + グッドパートナー（展着剤）50倍  
水量200ℓ / 10a（500ℓに一袋） 予想価格 10kg 6,000円 送料別途かかる場合があります。  
注意：展葉期を過ぎて散布すると、白く汚れが残ります。農薬との混用可



図1) 小トンネルあり 50%収穫  
被覆無し 1%収穫



図2) 枝枯病の症状  
昨年茎葉残渣未処理の場合に発生

### 4. 収穫

#### 1株当たりの収穫本数は、30～40%収穫

翌年の芽を養成するために四方と真ん中の5か所に必ず良いモノを残す。

立ち本数が少ない品種で、草丈が十分に確保されるようであれば、地面から下葉1～2節残して切る。

### 5. 防除（露地、ハウス共通）

ハウス作型 すすかび症状 蕾の蜜にカビ発生 換気を十分に行う

露地作型 枝枯病（図2） 地際の茎部分に赤い斑点 草丈10～20cmの時特別防除

散布時期	農薬名	倍率	対象病害虫
出蕾期（15cm前後）	ゲッター水和剤	1,000倍	灰色かび病
適蕾後（40cm前後）	ポリオキシシン AL 水溶剤	2,500倍	灰色かび病
	スミチオン乳剤	1,000倍	アブラムシ類、アザミウマ類
収穫前	フルピカフロアブル	2,000倍	灰色かび病
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	アブラムシ類、（コバエ対策）

○展着剤の使用について  
着蕾前：ハイテンパワー 10,000倍  
着蕾後：ブレイクスルー 10,000倍  
【混用順】  
水→展着剤→乳剤→水溶剤  
フロアブル→水和剤  
農薬調合の際、水の次に展着剤を入れるとより攪拌されやすくなる。

### 6. 収穫終了後の管理

収穫終了が近づいたら圃場全面に施肥をおこなう。LPコート70日タイプを10a当り20kg（2袋）散布し通路の土を株元へ寄せる。土寄せを行なうことにより翌年の芽が充実する。除草は、カルチで行なう場合は7月上旬頃までとし、7月下旬以降は根をいためるため行わない。